

□■養成所ニュースプラス第3号 2025□■

不順な天候が続いていますが、皆さんお変わりありませんか。

Test info でもお知らせしているように、第38回国家試験日程等が発表になりました。また、来週半ばまでには、第36期生と既卒者の皆さんに「2026 合格応援プラン」（中央法規出版）の案内が届きます。封を開けて、必ず内容を確認してください。教材は他社のものを使ったとしても、勉強の進め方やスケジュールは参考になります。

今週のレポート作成講座は「引用・参考文献」についてです。Plus Quiz は「社会学と社会システム」から「社会集団など」に関する問題です。選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるかも重要です。あわせて考えてみましょう。

■Plus Quiz

【第37回問題13】社会集団などに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 大衆とは、利害関心に基づき意図的に選択された集団のことである。
2. 外集団とは、そこに属していながら、帰属感や愛着心をもてない集団のことである。
3. アソシエーションとは、特定の目的を達成するための集団のことである。
4. ゲゼルシャフトとは、伝統的な地縁、血縁、友愛などによって形成された集団のことである。
5. 準拠集団とは、敵意を持ち嫌悪や軽蔑の対象となる集団のことである。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info

- ・(36期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ

申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。

本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。

- ・(37期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ

「受給資格者証と公的身分証明書のコピー」の提出をされていない方は、早急に提出してください。

- ・(37期生) 見込書類（実務経験証明書）のさしかえについて

入学願書提出時に「実務経験見込証明書」を提出している方は、入学資格または実習免除を満たした期間の「実務経験証明書」の提出が必要となりますので、早急に提出してください。

- ・受講の手引の表紙裏（表紙の次のページ）に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。

レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第38回国家試験は、令和8年2月1日（日）です。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1524100&c=3246&d=99c7>

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1524101&c=3246&d=99c7>

■Plus Info

その他の情報をお届けします

- ・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1524102&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1524103&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

【レポート作成講座第3回／引用・参考文献は忘れずに記入する】

毎年、テキストから引用あるいは参考になっているにもかかわらず、文献を記入しなかったために受付不可となる人が少なくありません。特に、「テキストをよく読み」や「テキスト〇ページを読み」と指示されている場合は、必ず記入しなければなりません。文献の未記入は、ルール違反であり「剽窃」と判断されます。文献を記入することは、引用し参考にしたテキスト等文献の筆者の文章だと示すことであり、皆さん自身を守る行為になります。

入学ガイダンスでは、レポート作成では信頼できる複数の情報源を確認して自身の言葉でまとめることをお勧めしました。引用・参考文献は忘れずに記入してください。複数の情報源とは、例えば、テキストの節ごとに示されている参考文献を読むのも良いと思います。なかなか荷が重ければ、索引を活用して、他科目や他出版社のテキストで課題に関連する部分を読んでみましょう。これも複数の情報源と言えます。例えば1学期の「ソーシャルワークの理論と方法」では、共通科目5第5章第4節にも関連の記述があります。

ネットで検索するのも一つの方法です。共通科目5第5章第4節3では資料収集におけるICTの活用を紹介しています。ただし、当養成所では、著者名が明らかでない「ウィキペディア」やYahoo!知恵袋のような「Q&A」、ブログやSNS、個人動画のような私信、生成系AIは、参考・引用文献としての使用を認めていません。イメージを掴むための確認にとどめてください。

レポート作成講座は今回でひとまず終わり、次回は、2学期レポート作成のポイントを8月下旬に皆さんと確認していこうと思います。

【Plus Quiz 正答と解説】

今回は、知識を想起して解答する問題です。解答するまでの「ひねり」はありませんが、知識がないと解けません。確かな知識があれば、時間をかけずに通過できます。そうでない場合は、消去法でいきましょう。

基本的な知識を問う内容は、繰り返し出題されます。この問題に対応する出題基準「組織と集団」も旧出題基準「社会集団と組織」を引き継ぐ項目で、以前から出題されてきました。今回の社会集団は第33回、第31回にも出題されています。第33回問題17の間違った選択肢の解説をよく読み理解していれば、今回の問題は素早く確実に正解できます。ちなみに、第33回の選択肢は「準拠集団、第一次集団、内集団、ゲマインシャフト、公衆」でした。この問題の発展として、社会学者とその業績を結び付けておくことも欠かせません。一つの問題から関連事項を広く学んでいきましょう。

過去問に取り組む意味と取り組み方を理解していただけたでしょうか。

1. ×クーリーの「第二次集団」の説明です。「大衆」は、社会的地位や階級、職業等の社会的障壁を越えて互いに見知らぬ人から構成される非組織集団です。社会学では「他人の意志や行為を基準にした他律的で受動的に行為する市民」を「大衆」と呼び、「自分自身の意志で他律的で能動的に行為する市民」である「公衆」と区別しています。
2. ×「外集団」は、自分が所属しておらず競争関係や対立関係にある集団を言います。サムナーは、「外集団」に対して、自分が所属して帰属感や愛着心をもてる集団を「内集団」としました。
3. ○マッキーバーは、「ともに住んでいる地域性のなかから共同感情が生まれてきた場合」を「コミュニティ」と呼び、コミュニティの中から特定の目的を達成するための手段として形成される集団を「アソシエーション」と呼びました。前者は町や村等にあたり包括的なもので、後者は学校や企業等にあたり特定なものになります。
4. ×「ゲマインシャフト」の説明です。テンニースは、社会集団を実在的で自然的な本質意志に基づいて形成された家族や村落、仲間などの「ゲマインシャフト」と、社会的で人為的な選択意志に基づいて形成された大都市、企業、政党などの「ゲゼルシャフト」に分類しました。
5. サムナーの「外集団」の説明です。マートンのいう「準拠集団」は、家族や学校のように自分の価値観を形成したり

行動したりする際の基準となる集団を指します。現在の所属集団に限らず、これから所属したいと憧れている集団も「準
拠集団」になりうると言われています。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus